

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

～雑司が谷地域の考古学～



雑司が谷3-19-4・6地区から出土した遺物

江戸時代、観光地として賑わいをみせた雑司が谷鬼子母神堂は、今も当時の面影を残し、都会の喧騒を忘れさせてくれます。この鬼子母神参道にある雑司が谷案内処で、「雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム 雑司が谷地域の考古学」と題した展示を、当会と雑司が谷地域文化創造館、豊島区教育委員会との共催で3月25日まで開催しました。

今回は、江戸時代の雑司が谷村と巣鴨村が接する場所にあった「御鷹部屋御役屋敷」跡地での発掘調査についてと、昨年の夏に行われた「雑司が谷3-19-4・6地区の発掘調査」の速報を展示しました。

「御鷹部屋御役屋敷」には、江戸時代の鷹匠の屋敷と、鷹匠同心の家屋が建っていました。この場所は現在の豊島区立中央図書館付近に当たり、東池袋遺跡として周知されています。この遺跡の発掘調査



案内処2階展示室の様子

調査が行われた時期は、夏休みでもあったため、近隣の方や子供達が調査に興味をもつてのぞきにきていました。この時から「どんな遺跡なの?」、「ここ出土品がみたい」などの要望があり、まだ未整理ではありましたが出土した遺物の一部と、調査の様子を撮った写真などを展示しました。

今後もまた、訪れる人たちに身近な歴史に興味をもってもらえるような、地域と密着した展示を開催したいと思います。(榎本邦人)

では、碗や皿などの日用品の他、鳥餌入れが多く出土しました。これは鷹の餌や訓練等に使われた小鳥が、飼育されていたためと考えられています。なお鷹は少し離れた場所で飼育され、「御鷹部屋」(現在の雑司が谷霊園周辺)と言われていました。

雑司が谷3-19-4・6地区は、展示会場となっている雑司が谷案内処のすぐ裏手にあたります。鬼子母神堂を中心とした周辺地域は、雑司が谷遺跡として周知されています。特に雑司が谷3-19-4・6地区をはじめとした参道近くの調査では、江戸時代の茶屋や料理屋の痕跡が多く発見されています。発掘調



雑司が谷案内処
鬼子母神参道沿いにあります。

イベント参加

「社会貢献活動見本市」に出展しました

NPO法人としまNPO推進協議会と豊島区区民活動センター運営協議会が主催する「社会貢献活動見本市」(以下「見本市」)に本年もブースを出展しました。この催しは、主に豊島区内で活動するNPO法人、ボランティア団体、CSR(Corporate Social Responsibility「会社の社会的責任」の略)活動を行う民間企業などの社会貢献活動を行なっている団体が、区内外からの訪問者に自身の活動をPRし、他団体と交流する区内唯一のイベントです。主催者の発表では、今年は45団体が出展し、来場者は約700名にもなったようです。毎年1回開催されており、今回で9回目となります。当会の参加は7回目で常連となり、他の常連の他団体の方々とも徐々に顔見知りになってきました。

毎年のように参加していますが、初参加の団体の方々や「見本市」に初めて訪れた方など当会について初めて知られる方々に、発掘調査やその報告書の作成、講座や展示といった埋蔵文化財の保護活動やその普及活動など当会が携わっている活動についてご説明すると、強い関心を示して頂きました。それが反映されたのか、来場者の投票で決められる展示優秀団体のひとつとして表彰されました。遺跡調査会という団体自体をPRする数少ない場ですので、今後も機会があれば積極的に参加したいと思います。(山崎吉弘)



展示ブースの様子



勤労福祉会館
春の文化カレッジ

「江戸城を知る」開催のお知らせ

締め切り間近！！

(公財) としま未来文化財団から委託を受けて、勤労福祉会館において講座を開催します。今回は「江戸城を知る」というタイトルで、江戸時代の江戸城を探求します。講師に文献史学と考古学の研究者を招いて、お話しをしていただきます。2回連続講座で、第1回は古文書からみた大奥について学び、第2回は発掘された江戸城について三の丸とその周辺を歩きながら学びます。



昨年度の講座の様子

日 時：第1回6月6日14時～、第2回6月13日13時30分～

申し込み先：勤労福祉会館 (TEL 03 - 3980 - 3131)

募集締切：4月16日(木)

※ 申し込み方法等は勤労福祉会館にお問い合わせください。

1,800円(当会会員の方には、補助があります。参加が決定された方は、講座当日に調査会スタッフからお受け取りください。)

展示のご紹介

◇名勝 小金井桜◇

当会会員の高木翼郎氏(小金井市教育委員会)から小金井市で開催されている「名勝 小金井桜」のご案内が届きましたのでご紹介します。

小金井桜は江戸時代に、玉川上水の両岸に植樹されたヤマザクラ並木で、大正時代に国の名勝に指定されました。この桜並木は江戸時代から地元の農民や幕府の代官たちによって代々守られており、現在も当時の面影を残しています。今回の展示では小金井桜の歴史を紐解く内容となっています。

みなさんもぜひ、春の散策として訪れてはいかがでしょうか。

開催期間：2015年3月28日～5月6日

※ 月曜休館(5月4日は開館)

時 間：午前9時～午後16時30分

場 所：小金井市文化財センター(旧浴恩館)

小金井市緑町3-2-27(浴恩館公園内)

ココバス北東部循環「JR武蔵小金井駅北口」または

「JR東小金井駅」乗車→「小金井公園入口」下車

徒歩5分 TEL 042 - (383) - 1198

観覧料：無料

名勝 小金井桜

季節展

3月28日(土)～5月6日(休)

午前9時～午後4時30分

月曜休館(5月4日は開館)

館無料

小金井市文化財センター(旧浴恩館)

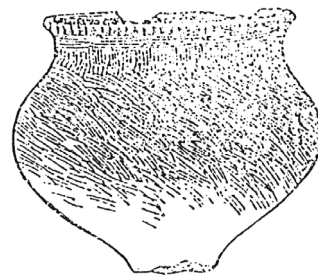
小金井市緑町3-2-27(浴恩館公園内)

Tel/Fax 042(383)1198

ココバス北東部循環「小金井公園入口」下車

徒歩5分

今から120年ほど前、現在の駒込一丁目（当時は巢鴨町大字上駒込）に、蒔田鎗次郎という考古学者が住んでいました。このコラムでは、池袋東貝塚の発見に関わる人物として紹介したことがある人物です。彼は絵画や写真に優れた技術を有し、その技術を活かして生計をたてる傍ら、明治20年代後半から考古学研究に邁進しました。東京帝国大学の坪井正五郎、鳥居龍蔵などの学者と交流があったことが、当時の論文から窺われます。蒔田は約10年の間に、11篇の論文を残しています。蒔田が描いた「弥生式土器」寡作ですが、弥生時代研究、石器研究などに業績を残しました。



さて、1896（明治29）年3月15日、蒔田は自宅の庭で遺跡を発見しました。ごみ捨て穴で土器を発見し、さらに、ごみ捨て穴の壁面で竪穴住居の土層断面を確認したのです。3日かけて自宅の庭で発掘調査を行い、詳しい記録は「彌生式土器（貝塚土器ニ似テ薄手ノモノ）発見ニ付テ」という論文にまとめ、『東京人類学会雑誌』に発表しました。

当時はまだ現在のような測量や観察に基づく考古学調査の手法が完成されておらず、弥生時代という概念も存在していませんでした。しかし、蒔田は土器が出土した地層の観察や出土した位置の測量、土器の観察を細かく行って、竪穴住居の覆土から土器が出土したこと、この土器が須恵器（古墳時代の遺物）よりも古い時代のものであることを明らかにし、日本の弥生文化研究の幕を開いたのです。

この場所は『日本旧石器時代人民遺物発見地名表』（第四版、1917年）に記載され、以後遺跡のある場所として伝えられてきました。しかし、戦後新たに文化財保護法が制定されたのを機に全国各地で作成された遺跡の目録には、何故か豊島区の遺跡は記載がありません。再び駒込一丁目の遺跡が知られるには、1988年の東京都による遺跡地図刊行を待たねばなりませんでした。

蒔田の調査から約1世紀後の1994年、豊島区としては初めて、駒込一丁目の弥生時代遺跡を調査する機会を得ることになりました。トーコー駒込ビル地区、グランドパレス田中地区という、隣接する2つのマンション建設用地で8棟の竪穴住居が発見され、焼失した住居や、遺棄された土器など、充実した内容の弥生時代後期の集落遺跡であることが改めて確認されました（豊島区教育委員会2005『伝中・上富士前Ⅲ』）。



さらに、最近では駒込一丁目遺跡から至近にある染井遺跡の一部で、方形周溝墓がいくつか発見されています。住居址とは時期に若干の違いがありますが、これまでに知られていなかった墓域が存在することが明らかになり、駒込地域の弥生時代像に新たな一面が加わりました。

現在では山手線に近い交通至便な住宅街となっていますが、蒔田が発見した「弥生時代」の痕跡は、時折行われる発掘調査によって今もなおその姿を見ることができます。

弥生時代の住居と墓の分布

（成田涼子）

【編集後記】

●つたのはも今号で、30号となりました。これからもよろしく願いたします。

●今年も染井では、桜が見事に咲いていました。毎年染井の桜をみるのが、楽しみにしております。②

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@atoshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：千葉弘美 島村篤子

「つたのは通信」の由来：蒔は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蒔の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。